

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 1 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2008～2011

課題番号：20243036

研究課題名(和文) 先進国周辺の地域再生と生涯学習計画モデルの構築

研究課題名(英文) Community Regeneration in the Periphery of Developed Countries and Building the Models of Lifelong Learning Program

研究代表者

鈴木 敏正 (SUZUKI TOSHIMASA)

北海道大学・大学院教育学研究院・教授

研究者番号：70093648

研究分野：社会教育学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：先進国周辺、地域再生、生涯学習計画

1. 研究計画の概要

地域再生と教育再生とを結びつけるという今日の課題と、2006 年末成立した新教育基本法のもとでの地域教育振興計画策定という実践的課題をふまえ、地域生涯学習・教育計画論の理論的・実践的研究を展開する。

(1)生涯学習を今日の社会的排除問題に対応する社会的包摂の政策と実践の一環として捉え直し、とくに先発・中発・後発の先進国(英日韓)の周辺の地域をフィールドに、「持続可能な包摂型社会」をめざす生涯学習のあり方についての比較研究を行う。

(2)日本の周辺地域として北海道の周辺市町村をとりあげ、そこでのインテンシブな地域実態調査にもとづいて地域生涯教育計画(地方都市型モデルと農村型モデル)への方向を検討する。

2. 研究の進捗状況

(1)まず、戦後日本における教育計画論の批判的検討を行うために、その展開過程を整理し、歴史的・構造的・実践的分析をとおした現代教育計画論の理論的・実証的・実践的課題を提起した(鈴木敏正著『現代教育計画論への道程』大月書店、2008)。

(2)日英、日韓の国際シンポジウムと地域実態調査(英国リーズ地域、韓国ホンドン地域など)を重ね、これまでの調査研究を日英韓の研究者による協同の成果として出版した(鈴木敏正編『排除型社会と生涯学習-日英韓の基礎構造分析-』北海道大学出版会、2011)。これとは別に、ホンドン地域の調査報告書として『韓国農村教育共同体運動と代案学校・協同組合の展開』(北海道大学教育学研究院社会教育研究室、2011)をまとめた。

(3)北海道地域調査は、士別市、中川町/音威

子府村、稚内市、釧路市、標茶町で継続的に実施し、これらのうち、農村型モデルの典型と考えた標茶町については、研究成果を鈴木敏正・玉井康之・川前あゆみ編『住民自治へのコミュニティネットワーク』(北樹出版、2010)にまとめた。なお、中川町調査については、『北海道北部の地域振興 VII』(道北の地域振興を考える研究会、2011)で中間的な報告と討論を行っている。

地方都市型モデルとしては、稚内市の場合について原稿をとりまとめ、稚内市の実践者との討論過程に入っている。釧路市については、学生参加の調査報告『地方都市の再生にむけて』(北海道大学教育学部、2009)をまとめたが、継続調査研究中である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

学会報告や個別論文のほか、2で述べたような研究成果を公刊している。

これらの成果をふまえて、当初計画を発展させて、2010年のイタリア南部開発調査、2011年の台湾・台北市社会教育調査と台湾師範大学での共同シンポジウムも実施した。

「持続可能な包摂型社会への生涯学習」の視点を展開するために、新たに日本環境教育学会メンバーとの共同研究をすすめ、とくにホンドン地域協同調査を実施し、その成果を2の(2)の報告書にまとめている。

4. 今後の研究の推進方策

(1)国際比較研究については、日英韓の政策と実践の分析と、それにもとづく提起をした鈴木敏正・姉崎洋一編『持続可能な包摂型社会への生涯学習(仮)』を出版する。さらに、英国リーズ地域の調査研究の成果をまとめ

た報告書を作成する。

(2)北海道の地域調査については、とくに地方都市型のとりまとめを重視し、実践者との議論を経て、稚内市の調査研究報告書を作成し、出版も検討する。釧路市についても、補足調査を実施して調査報告書を作成する。

(3)以上を加えて、全体的な総括をする。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 姉崎洋一、社会教育法制改革と教育法的研究課題、日本教育法学会年報、査読有、第39号、2010、90-98頁
- ② 神沼公三郎、北海道における森林管理の現状と課題、北方林業、査読無、第62巻9号、2010、1-5頁
- ③ 玉井康之、保護者・地域との連携と学校の組織力、日本教育経営学会紀要、査読有、第52号、2010、37-47頁
- ④ 吉岡亜希子、稚内市子育て運動における父親の学びと組織づくり、北海道大学大学院教育学研究院紀要、査読無、第111号、2010、129-150頁
- ⑤ 鈴木敏正、イリッチ／フレイレの思想と環境教育、環境教育、査読有、第19巻3号、2010、29-40頁

[学会発表] (計5件)

- ① 河野和枝、「子育て・子育て」を考える重層的な地域組織の展開と学習側面の一考察、日本社会教育学会、2010年9月18日、神戸大学
- ② 姉崎洋一・宋美蘭・石山貴士、韓国ブルム学校の総合的研究(その1)、日本社会教育学会、2010年9月19日、神戸大学
- ③ 吉岡亜希子、稚内市子育て運動における父親の意識変容プロセス、日本社会教育学会、2010年9月19日、神戸大学
- ④ 室橋春光、青年期QOLと発達障害特性との関連性、発達障害学会、2010年9月4日、東海大学
- ⑤ 鈴木敏正、日本社会教育学の動向と当面する課題、日本社会教育学会・韓国平生教育学会共同セミナー、2010年4月3日、韓国カンヌン現代ホテル

[図書] (計5件)

- ① 鈴木敏正編、北海道大学出版会、排除型社会と生涯学習-日英韓の基礎構造分析-、2011、278ページ
- ② 日本社会教育学会編、東洋館出版社、教育法体系の改編と社会教育・生涯学習、2010、38-49頁(姉崎洋一稿)
- ③ 岡崎友典・玉井康之、放送大学教育振興

会、コミュニティ教育論、2010、66-111,143-195頁

- ④ 鈴木敏正・玉井康之・川前あゆみ編、北樹出版、住民自治へのコミュニティネットワーク-酪農と自然公園のまち標茶町の地域再生学習-、2010、286ページ
- ⑤ 鈴木敏正、大月書店、現代教育計画論への道程-城戸構想から「新しい教育学」へ-、2008、341ページ

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]